

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「JA 地産地消こだわりの宿」
- 2) 「シルバーデパート」
- 3) 「肥満、増加すると温暖化加速?!」

1) 「JA 地産地消こだわりの宿」

JA グループの旅行会社である農協観光が、2008年10月から展開している地場産食材を使った食事を楽しめる宿泊プラン。普通の旅館やホテルのようにどこにでもあるような料理ではなく、地元で収穫された食材が郷土料理などに調理されてホテルの夕食として提供される。参加者は食べた料理のレシピがもらえるので、途中で直売所に立ち寄って食材を買って帰り、自宅で料理を再現することもできる。

一部のプランは食材の「もち込み」も可能で、事前に食材をホテルに送っておくと、それを料理して出してくれる。顧客のほとんどが農家であるために、こうした需要もあるようだ。地場産以外の食材も国内産を使うのが原則で、これにこだわった宿泊プランは業界初。民間企業もこういった取り組みを始めてはいるが、全国にグループがありすべての食材を国産で揃えるなど、独自の取り組みが出来るのはJA ならではかもしれない。

2) 「シルバーデパート」

東京・新宿の京王百貨店新宿店が1990年代後半から50-60歳代の女性を顧客として重視した店づくりをしている。エスカレーターの動きを他店よりもゆっくりにし、案内表示の文字を読みやすく大きくしたりと売場に工夫が施されている。

また、デパートの顔でもある1階売り場は、床面積の4分の1以上の約600平方メートルを靴売り場にするによって、高齢者が取り組みやすいウォーキング用の靴を700足以上取り揃えている。機能を重視するだけでなく、ヒールが高めの物や色鮮やかな物などファッション性も備えた商品も用意し、高齢者が手にとって見やすいように配置。

京王友の会という習い事教室も充実しておりシルバー層のコミュニケーションの場としてライフスタイルを構成している。

チラシから商品構成までメインターゲットを絞ることでより効果を得ているようだ。

3) 「肥満、増加すると温暖化加速?!」

肥満の人の割合が全世界で欧米並みに高まると、10億人当たりの温室効果ガス排出量はCO2換算で最大10億トン増えるとの試算を、英ロンドン大衛生熱帯医学大学院がまとめた。食料生産に必要なエネルギーや、車の燃料消費の増加が原因。04年の世界の人為起源

による温室効果ガス排出量はCO₂換算で約490億トン。肥満の増加は温暖化を加速するといえそうだ。英の疫学専門誌電子版に発表した。

体重が増えると体の維持や活動のため、より多く食べねばならず食料生産の需要が高まると考えた。また、車1台に同じ人数が乗っても燃費が悪化するほか、徒歩が体の負担になるため車の利用が増えると想定。そのうえで、BMI(体格指数)30以上の肥満人口が3.5%だった英国の70年代の「適正体重社会」と、2010年に予測されている肥満人口40%の「太り過ぎ社会」の温室効果ガス排出量の差を試算した。

その結果、太り過ぎ社会では適正体重社会より食料生産に必要なエネルギーが10億人当たり19%増え、排出量も年2.7億-8.1億トン増加した。車では燃費の悪化と利用頻度が上がり、排出量は年1.7億トン増加。太り過ぎでの増加分は4.4億-9.8億トンと推計した。

06年の日本人男性の平均BMIは23.39、女性は22.47と、まだスリムだが、米国では3人に1人、南太平洋の島ナウルで6割がBMI30以上と推定され、各国で太り過ぎ社会が到来している。

研究チームのフィル・エドワーズ博士は「健康体でいることが温暖化抑制にもなる。自転車利用の促進、都市部への自動車乗り入れへの課金、野菜の摂取など肥満予防と温暖化対策の両方に効果のある施策を推進すべきだ」と指摘している。

体に悪いことは環境にとっても好ましくないと言えることが多いと思う。自分や家族の体を労わるように地球の健康にも意識を向けて、少しでも健全に生活できるように心がけたい。